

いりおもてじま

西表島の 多様な亜熱帯の森と 知られざる植物たち

植物の宝庫、西表島

西表島は、沖縄本島から400 km南西にある八重山諸島のひとつで、県内で沖縄本島について2番目に広い島(約290 km²)です。島の約9割が亜熱帯の常緑広葉樹林に覆われ、国内屈指の大自然が広がっています【写真1】。西表島には約1300種の植物が自生しているといわれています。しかし、実際に島のどこに、どのような植物が生育しているのか、まだ完全に解明かされていない謎多き島です。

西表島を彩る多様な植物たち

西表島は、海岸から山地まで手つかずの自然環境が残されています。島の海岸線や河口には国内最大の面積を誇るマングロープ林【注1】が広がっています【写真2】。



写真1 西表島船浦湾

1年を通じて常緑樹林に覆われる。晴れていても突然スコールのような強い雨が降ることが多い。



写真2 西表島東部の後良川に広がるマングロープ林

オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、マヤブシキなどが見られる。



写真3 サガリバナ

花は夜に咲き(右上)、翌朝には落ちる。花が水面に浮く姿もまた美しい。

日本では亜熱帯地域の北限である鹿児島県と沖縄県でしか見ることができない貴重な自然生態系です。河口付近ではオヒルギやヤエヤマヒルギをはじめとする大規模なマングロープ林が見られ、その風景は圧巻の美しさです。川辺や湿地帯には、サガリバナの群生が見られるようになります。6、7月に花の盛りを迎え、夜になるとほのかな芳香を放ち、白桃色の花を咲かせます。そして、翌朝に花は落ちてしまいますが、川面に散り浮いて幻想的な絶景を作ります【写真3】。

西表島は平地が少なく、島の中心部に300〜400 m級の山々が連なっています。平地にはリュウキュウマツ、ハスノハギリ、オオバギ、アダン、フクギ、トウツルモドキ、イヌビワの仲間などがよく見ら

れます。聞き慣れない名前の植物が多いと思いますが、その多くは沖縄以南の熱帯地域に生育する種類で、日本では沖縄以外の地域では生息していない植物ばかりです。

山の溪谷【写真4】には、500円玉大のどんぐりを実らせるオキナワウラジロガシ【写真5】の巨木や木生シダのヒカゲヘゴ、巨木に巻き付くツルアダン【写真6】などが生い茂り、まるでジャングルのような亜熱帯の常緑広葉樹林が広がっています。また、クロヘゴ、リュウビンタイといった大型シダ類をはじめ、さまざまなシダ類が繁茂しています。林の上に目をやると樹幹や枝に大きなヤエヤマオオタニワタリ【写真7】などの着生シダがたくさん見られます。まさに国内最大級の野生シダ天国です。

研究者の横顔

Q1. なぜ研究者に？

高校生の頃から野生植物を探し、写真を撮ることが好きでした。大学を卒業し、学童保育や介護職をする中で、人生は思っていたより短いと思うようになりました。また、ずっと植物のことを考えながら生きていきたいと考えようになり、研究者を志すようになりました。

Q2. 影響を受けた人など

好きなことを続けることを教えてくれた陶芸家・茶道家の父、高校時代の生物部の顧問で植物の観察の仕方を教えてくれた先生、フィールドの大切さや研究の楽しさを教えてくれた大学の教授などなど…。挙げたらきりがありません。

Q3. 研究の醍醐味は？

研究することは簡単ではありませんが、観察や調査を続け、小さな発見でも積み重ねていくとやがて自然の壮大なストーリーが見えてくるのが研究の醍醐味、面白さだと思います。植物の生態を明らかにしつつ、植物たちがどのような分布変遷を辿ってきたのかという植物の歴史を議論することが面白いです。

Q4. 若い人へ

私も何度か研究者になることを諦めかけたことがありますが、その度に多くの人が研究者になる道を導いてくれました。自分の研究テーマを大切にすることはもちろんですが、人との縁を大事にすることが、研究者をめざし、面白い研究をしていく上で重要だと思います。また、研究に限らず「楽しい」という気持ちをもつことは、とても大事だと思います。

▶注1：マングローブ

熱帯・亜熱帯地域の淡水と海水が混ざり合う干潟や河口付近に生育している植物の総称。



設楽 拓人

Shitara Takuto

多摩森林科学園



オキナワウラジログシの
どんぐり(原寸大)



写真4 山の奥地の渓谷林

湿度が高く、多種多様な樹木やシダ、コケに覆われる。



写真5 オキナワウラジログシ

山の乾いた場所に生え、巨木は台風などから木を支えるための根が板状になる「板根」が特徴的。リュウキュウイノシシのエサにもなるどんぐりの大きさに驚かされる。



写真6 ツルアダン

木や岩に巻き付くタコノキ科のつる性植物。木全体を覆ってしまうことも。



写真7 ヤエヤマオオタニワタリ

西表島でよく見られる大型のシダで、長さは1mを超えるものも多い。樹幹や岩の上に着生している。



写真8 ホソバノキミズ

熱帯に広く分布し、日本では奄美大島での分布が知られていたが、2021年に西表島でも見つかった。

参考文献

「沖縄県西表島産希少植物の島内分布調査と記録の確認——維管束植物相解明に向けて」(植物研究雑誌、2023,98(4) p.178-191
山本武能、米倉浩司、阿部篤志、天野正晴、遠山弘法、設楽拓人ほか)

まだまだ見つかる新たな植物たち

植物や植生の分布調査は、現地を歩いて探しまわるのが基本です。しかし、島の奥地の大部分は道がなく、崖や滝、藪が多く植物を探索するのは容易ではありません。そのため、まだまだ見つからない植物も多く、近年もホソバノキミズ

島のやホソバムラサキ、ツボミヤツシロランなどが西表島で新たに見つかりました。また、コブラン、リュウキュウキジノオ、ヤエヤマカンアオイ、タイワンミヤマトベラなど西表島内における希少植物の分布や生態についても、多くの研究者の尽力によって明らかになってきています(山本ら2023)。このように貴重な動植物が生き残り、新たな植物が見つかるのも豊かな自然生態系が残されてきた結果だといえるでしょう。

これからもこの貴重な自然環境を守っていきけるように、我々人間が自然について理解し、大切にしていくなければなりません。